令和3年度 兵庫県立三木東高等学校 各年次・各部の課題と取り組み

教育目標
1 校訓「自治・協同・敬愛」に基づく教育を推進し、知・徳・体の調和のとれたこころ豊かな人間を育成する
2 個に応じた教育により、自ら学ぼうとする態度を育成し、一人ひとりの能力・適性に応じた進路の実現を図る
3 地域の教育力を活かした教育活動を推進し、地域から愛される間かれた学校づくりを進める

令和3年度努力目標

キャリア教育の充実 学力の向上 教員の授業力の向上 生徒による活動および生徒指導の充実 広報活動の充実

令和3年度の学校評価の流れ (6月) 担当部署で本年度の課題と課題に対する取り組み、評価指標と活用するアンケートを決定する (8月) 担当部署で中間評価を実施・申請即の取り組み成果と後期に向けて見高すべき点があれば見高す (12月) 学校日が第四ケットークの実施 (1月) 生徒・保護者・職界アンケートの実施 (3月) 学校関係者評価 (3月) 学校関係者評価

学校経営の重点 (1) キャリア教育を支援する総合学科における取組の推進

1) イマク・教育を文献する960日イヤトの1090年20世紀 ア 優々の生徒にむたキャリア派を日担し、生物との社体を有さ数百法動を展開する イ 学校・家庭・地域との連携を図り、生徒の「基礎的・汎用的能力」の育成を日指した自己有用感につながる様々な体験活動をとおしてキャリア教育を推進する ウ 次年度からの新学習指導要領を見据え、魅力ある学校づくりを進めるための将来ビジョンを構築する

2) 生徒の可能性を広げ、生徒一人ひとりの能力・技能を高める指導の展開

- ア 個々の生徒を理解し、豊かな人間性を育む教育活動を展開する イ 生徒の自己実現を図るため、主体的な学習態度と確かな学力を育成する ウ 生徒・教員のふれあいと生徒の内面に対する共感的な理解に基づく生徒指導を推進する

(3) 学校の組織力の強化及び教職員としての実践的指導力の向上 ア 教育の専門家として、最新の知識・技能を身につけ、更なる資質・能力の向上に努める イ ワーク・ライフ・パランスの実現を目指し、業務の効率化と勧誘時間の適正化を図る

令和3年度 努力目標No・課題(目標)・課題に対する取り組み・評価指数と活用する外部アンケート(各年次・専門部)

年次 ・専門部 令和3年 度努力目 編No	課題(目標)	課題に対する取り組み	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評 価 点 (5段階)	各年次· 専門部 平均	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	「確かな学力」の育成を目指態 し、主体的に学習に取り組む態数 に等習に取り組む態数 度を育ませる。生涯にわたっこと をもりに質ができるように変距で思い 個性や資質すらに変距で認 が充実させるための学習と 定と学習環境の充実を 定と学習環境の	・「生活・学習の記録」を活用し、①起床 ②帰宅③就寝時間の3点固定を推奨すると ともに、家庭での学習時間を可視化して 単位で家庭学習時間の目標設定と実施状況 の振り返りを行わせる。 ・「国語」「英語」の既習範囲を 中心に週末課題として課題範囲を提示し、 取り組ませる。	ていますか。」の質問に対して、(①しっかりと集中できている」「②ある程度は集中さまている」(②) 「提出は期限を 守ってきちんと提出できていますか。」の質問に対して、(団 限を守ってきちんと提出できていますか。」の質問に対して、「で できている」の2項目の回答結果がどちらも80%以上である。 (3) 「家庭での休日の学習時間とどれくらいですか。」の質問	・「生活・学習の記録」を活用し、①起床②帰宅③就寝時間の3点固定を推奨するとともに、家庭での学習時間を可視化させることができた。生徒によっては、週単位の家庭学習時間の目標設定と実施状況の振り返りが不十分な生徒もおり、継続した働きかけが必要である状況である。 ・「国語」「数学」「英語」の既習範囲を中心に課題範囲を提示し、計画的に週末課題に取り組ませることができた。	4.0		・評価指標である10月実施の高校定法実施調査の結束として、(1)の質問 に対して「①」「②」の回答結果が20.9%。(2)の質問に対して「①」 ②」の回答結果が80.9%。(3)の質問に対して「①」の回答結果が 13.4%であったよりで、13.4%であったことを受け、11月より「モボ・学習の受験」による豪祉を 第の機化を重点課金として、提出版度を増やすことや担任生徒の学習状態 の電地根を行った。とと、選手課の高端中共担り表がたさます。50年間	・家庭における学習習慣の確立を重点課題として取り組んでいることは、「確かな学力」の 育成という観点からしても重要である。基礎基本の定着なくして主体的な学びの姿勢を育成 することは難しい。学習状況の把握を丁寧に行うことで、提出課題への工夫がなされるな ど、取り組みがされている。 ・設定された評価基準に照らして、ほぼ目標達成していると思います。「家庭での休日の学 習時間がゼロ」という回答は、設定した基準値より悪いわけですが、これが記名式のアン 「ケートであったとすわげ、支援の対象者がピンガインとで知程できるわけですので、個にな
1年次 ④	学校行事や部活動に積極的に参加する雰囲気を醸成する。参加を通じて、生徒一人ひとりの「自立」に向けた自己認識や自尊感情を高める機会とする。	・文化の部や体育の部などの学校行事・部活動の積極的な参加を推奨する。 ・学校行事を通じて、クラスメイトとの人間関係を深め、コミュニケーション能力の向上を図る。	の部などの学校行事に際し、準備段階を含めて積極的に活動できましたか。」の質問に対して、「①積極的に活動できた」「②あ	- 文化の部が6月17日に開催され、1年次生徒はクラスごとの選択により「展示部門」・「ステージ部門」に参加することができた。 ・体育の部が9月30日に開催され、クラス対抗による競技が行われた。残念ながら、総合順位において上位3位までに入資する1年次のクラスはなかったが、「大縄跳び」の競技において2位となるクラスもあり、健闘することができた。 ・球技大会が7月14日に開催され、男子「キックベース」、女子「キックベース」・「パレーボール」の競技において1年次クラス対抗戦を実施することができた。	4.1	4.0	に向けた自己設備や自尊感情を高める機会とすることができた。女牛度も 繊維して取り組んでいきたい。	・教育では数値化が難しい内容が多いと考えられるが、あえて外部アンケート結果を評価指標とし、その結果を捉えた適切な改善策が実施され、成果があがっている。学力を根底からはカット・ファールのは、カーリー・ハルビ・カーによった。 米田 伊 は (*********************************
4	人権尊重に対する理解を深め、 自他に対する肯定的な態度と共 生社会の実現に主体的に取り組 む実践力を育成し、「豊かな 心」の形成を目指す。	・1 学期および2 学期にそれぞれ各1回の人権ホームルームを実施する。 ・日々のホームルー人活動を通じて、クラスの一員としての役割を担う機会を設ける。	あまあ楽しい」の回答結果が80%以上である。 ・10月実施の高校生活実能調査において、「日番や機能当番、委員の活	・1学期の人権ホームルームを6月に実施、2学期は11月に実施する予定である。 ・学級役員や係決めを4月・9月に実施した。クラスの一員として、役割を果たせる環境づくりを継続していく。	4.0	.0	・評価指標である7月および12月末遊のいじめに関する生徒アンケートの 結果として、「①」「②」の回答結果が7月は91.0%、12月は92.5%で あった。 ・評価指標である10月末姫の高校在活実施調査の結果として、「①」 「②」の回答結果が96.8%であった。 ・人権意識を高め、「こころ豊かな人間性」の形成を目指すことができ た。次年度も継続して取り組んでいきたい。	いじめに関する名をデンケート結果の回答結果が良いことは、コロナ禍の厳しい状況の中でも、でき得る限りの学校行事や部活動を実施し、クラスの中でも生徒に役割分担をさせて、他者とのつながりや居場所を感じられる機会を積極的に作る努力をされた表れだと思います。
1	「総合学習」等の授業を中心 に、将来の職業選択を考え、進 路研究に役立てる。	「総合学習」等の授業を中心にインターン シップ・オープンキャンパスに参加し将来 の職業観を考える。		インターンシップやオープンキャンパスが、コロナ橋の影響で何年のような状況での完全実施ではなかったが、代替としてレポート提出100%、評価が5段階の3以上の成績を修めることで、取り組み状況を計測し、概ね目標を連成したと考えられる。。	4.0		評価Dにあたる者(観点3項目が2つ以上D)が5名。評価で3と考えて全員ではないが、代替内容で対応しながら生徒たちは積極的に取り組みを行ったと思う。	・「学力向上」を最優先に授業を大切にする態度の育成や教員の授業改善に取り組まれている。スタディサブリを活用した「個別の学習」に加え、総合学習での発表など「協働的な学習」の取り組みもされている。 いばなり (2000年) しょれたさまい 日間 と
	を大切にする態度を養い、家庭学習を習慣化するとともに、休	スタディサプリによる家庭学習 時間調査を実施、メッセージ機 能による個別の対応をおこな う。	学習時間の結果を見て、生徒自身が 家庭学習時間の目標を立て学力向上 に繋げる。	8回生では、スタディサブリよりも、各生徒が記入し提出する「生活と学習の記録」を通じ、担任が各生 後の状況をより締めいに犯疑し、呼びかけを行っている。 結果として考査前の学習時間は「0」も数名見受けられたが、全員が学習時間を増加させていると記録に 記入している。年次+1時間を最終目標とするが、現時点では概ね目標を連成と考えている。	3.9		時間については「全くしない」が15%程度存在するなど、学習へのアプ ローチも丁夫したい。	信がホームペーン、メール機能を活用した情報発信が積極的に行われている。 ・1年次と同じく、問題を抱えていそうな生徒を抽出しやすい側面があったと思います。支 接のターゲットを明確にする利点はあったと思います。 ・生徒の実態把握と教職員による情報共有が的確になされている。また、保護者・生徒との 情報出去も複数の健なを活用して効果的にかされている。
2年次	「学力向上」を最優先に、授業 研究を行い、突然の休業等にも 対応できる遠隔授業の研究も行 う。	スタディサブリによる家庭学習時間調査を 実施、メッセージ機能による個別の対応を おこなう。	長期休業中や日々の復習・予習に活 用できないかを考え活用する。	スタディサブリの学習呼びかけから、直接生徒の声掛けを行い学習活動を行う方向にシフトしている。11月から は故護後省望着も実施し、建設登議や学習書後は高がている、スタディサブリ以からも学習活動を活性化させ でおり、軌道修正を図りながらより生徒の意識づけの効果を高めていきたい、目標を軌道修正したが、こだわり 過ぎず効果的な方法を考えて活動を行っている。生活実態調査でも結果を把握したい。	3.9	4.0		平素の学習の大切なに気づき、主体的に取り組む生徒を地道に育ててほしい。 ・2年次からは、総合学習の授業を中心に三木東高校の強みである、キャリア教育を進め、 生徒の学力向上を優先に、コロナ禍の中でも学力向上が出来る様リモートの活用も含めて、 授業が出来れば良いと考えます。
4	生徒生活状態や課題の取り組み 状況の把握を行う。	年次団で全生徒の個別面談を行う。	個別面談で生徒の個々の状況を把握した結果の 活用。	毎回生では担任を仕じめ年次の担当者が個々の状況を把握、情報交換を行い生徒の様子を把握している。個別面 数も複数回完了しており、気になる生徒には直接の面談や声揚けなど複数回にわたる状況把握を行っており、目 様は造成している。今後も衰退を継続したい。	4.3		各生徒の状況を適切に把握し情報共有を行えている。	 努力目標④に関して、コロナ禍で人間関係が希薄になったり、家庭での生活状況を把握するのが難しくなりがちだと思われるので、個別面談を積極的に実施されたことは良いことで、生徒や保護者の安心感につながると思います。
(5)	学校行事・2年次の取り組みを 年次通信で広報発信する。	年次通信を毎月発行。スタディサブリの メッセージ機能や365メールを活用して 情報を発信。	緊急対応だけではなく、スタディサブリのメッセージ機能や365メールを活用し保護者・生徒との情報共有を行う。	月に1回以上の年於通信発行は実施している。必要に応じ265メールも括用し、保護者含め広報活動や連絡 を行っている。課題としては「紙」媒体の場合、保護者の手元に届かない場合も多く365メールと組み合わ せながらより広報活動を先実させたい。	4.1		年水通信やホームページ、365メールも適宜店用して情報発信は行え た、今後は振媒体が保護者へ届きやすくなるよう工夫を考えていきたい。 具体的には、振媒体とメールの相乗を行いたい。	努力目標⑤に関して、確かに、紙媒体は保護者の目に触れにくいと思われます。メール等で、「年次通信を発行しました。ここに注目。」というようにお知らせいただけると、気にして見るようになるのではないかと思います。
	生徒一人ひとりに明確な進路目標を持たせ、学力向上と進路 (進学・就職)の実現に向かう環境を整備する。	 連路別ホームルームを実施し、進路実現に向けた準備を行う。 放鉄後補習や夏季補習を開講し、進学における入学試験対策だけでなく、就職試験対策も実施し、幅広い進路に対応する。 	生活実態調査において、「希望する進路を実現 するために積極的に準備できていますか。」を 問う。	就職希望者に夏季休楽中から就職補習・面接指導の実施、2学期の現在就職希望者全員が内定を勝ち取った。これからは、社会人としての常識と学力を身につけ、進学者望者の応援に回ってほしい、 私の入款連手希望者は、エントリーシート、自己推薦文、課題作成をして健康した。 指定校推薦でも第1 希望の大学にエントリーして推薦会議で選ばれ連節を実現した。 現在公募推議に出願すである、健願を期待したい。来年の一般試験で受験する生徒は放課後補習を受け、目標を高め真剣に頑張っている。	3.8		望者が履修して、就職意識を高め健闘した。進学では 共通試験を受験、一般入試の最後の最後まで頑張る気	・就職であれ、進学であれ、将来の自分の進路選択についてしっかりと情報提供を行い、進路への目標を持たせるための取り組みが行われるなど、進路対策への取り組みがしっかりと行われている。 ・コロナ禍によりSNS利用者が増加する中、「心豊かな人間性」の形成を目指し、人権意識の向上に取り組まれている。 ・1年次・2年次のような数値によるベンチマークは示されていませんが、何らかの問題は常にあるので、そこが明確になるならば、評価の仕組みは十分機能していると思えます。
3年次	部活動や学校行事に積極的に関 わらせ、最高年次としての自覚 を促す。	 ・引退まで継続して部活動に参加するように推奨する。 ・最高年次として、それぞれの学校存事を思い出深いものとなるように積極的な参加を推奨する。 	高校生活実整調査において、 (1)「文化の部や株育の部などの学校行事に際し、準備段階を含めて 積極的に結婚できたか。」を問う。 (2) 「4月以降を振り返って、あなたの学校生活は充実している か。」を問う。	2年次よりコロナウイルス感染・緊急事態宣言発出により、修学旅行をはじめ学校行事が中止になりストレスを感じる日々を過ごした。3年次になり武塚祭「文化の部・体育の部」を行うことができ、高校での思い出を紡ぐことができた。 感染者数も減り、安心できないが、最後のサプライズに遠足を企画したい。	3.4	3.6	11月にUSJ遠足を実施。滞在時間6時間を満喫。 始めの予測より欠席者が少なかった。 ストレス解消、クラスの雰囲気が良くなった。	・設定した評価指標とアンケート結果を活用し、その評価から適切な改善策を実施することで、より成果が実感できるようになると考える。 ・3年次では、生徒し人ひとり明確な進路目標を持って、進学及び就職に向けての教育、特に研究発表等を通じての体験学習でキャリアアップを行い、進路に繋がれば良いのでは、又、いろんな理由で登校出来ない生徒に対してSNS授業及び、ライン等による相談が出来れば尚良いのでは。 ・努力目標②に関して、就職希望者、進学希望者、それぞれに合わせた指導や対策が取ら
4	の形成を目指す。他人の意見に耳を傾けな	 ・1 学期および2学期にそれぞれ各1回の人権ホームルームを装造する。 ・日々のホームルーム活動を通じて、クラスの一員としての役割を担う機会を設ける。 	・いじめに関する生徒アンケートにおいて、「学校に来ることは 楽しい。」かを問う。 ・1高校生活実態調査において、「日番や掃除当番、委員の活動 など、クラスの一員としての役割がよく果たせているか。」を問う。	SNS等の利用、対人関係など細かな指導により落ち着いている。 10月のLHRで、人権学習「ジェンダー」について学習した、DVDを視聴 する態度も非常に良かった。実際の社会で活用できるように考えを深めてもらい たい。 進路の決定していない友を応援する、優しい心を育ててほしい。	3.6		SNS等の問題は少なくなった。 コロナのための昼食の取り方等、人を思いやる心が少し未成熟だと感じた。	1 人 それぞれの成果が出ているものと思います。
②	・読書啓発活動を行い、学校図書館の活性 化をはかる。 トピブリオバトルを通じて語彙力を養い、 自分の処心を相に伝えてコ 同時に、 ションをはかる機会とする。同時に、プレ ゼンテーション能力の向上も成ざる。 、豊かな歴化思考力を開かする。 ・3年間で100冊以上図書館の本を借り て年次の上位名が受賞できる「読書奨励 賞」の受賞者3名をめざす。	変や図書館利用者による図書簿入りクエストを集める。図書担当 先生力の確認をとりなから、定時間の図書を構みする。図書だます。 「Library」に新書図書を推載したり、変紙のカラーコピーを掲示 に図書が要と表したり、変紙のカラーコピーを掲示 に図書が要となった。 ・「兵庫県上グリオバトル。高校生大会」出場に向けて、「校内ピーリオバトル大会」を予禁とし、参加者を夢ぶ。 ・対めて「ビグリオバトル」に参加する生態の不安を経験する為、 「ビブリオバトル」をかます。 に関連してリオバトル」に参加する生態の不安を経験する為、 「ビブリオバトル」をデーマに「兵庫県立図書館学校サポート溝 原ご ラ製計である。全位発住を影響が多が多がいたり、「ビブリオバトル」の に関・実験する。全位発性と影響が多が多がいたり、「ビブリオバトル」の の経験を変書を発や図書館利用につなげる。	9・図書委員による読書啓発ボスターを校内に掲示している。 ・図書委員による新著図書のお知らせを校内の生徒が通る館下に 掲示している。 ・全校生徒によびがけて「校内ビブリオバトル大会」の参加者を 7 募り、「校内ビブリオバトル大会」を年1回開催する。 ・「兵庫取公園書館学校サポート講座」を活用し、図書館の来館 者を増やし、読書啓発活動を行う。 ・「読書奨励賞」の受賞者が1名以上いる。	今年年の図書の中間計画を立てて、その計画を確認したがら進めることができた。 ・制度 図書館よる短載とを表して、テラのではたまから、職員を表した。 ・開展 写書館よる短載とを表して、テラのではたまから、職員をごは職員からリケエスト図書を募った。 ・図書を具合を2回行い、「図書館を行こう」ボスターの制作とテラスでの「図書簿人を図書え、の実施をした。 ・図書を具合な2回行い、「図書館を行こう」ボスターの制作とテラスでの「図書簿人を図書え、の実施をした。 ・図書を具が図書きまま。て実施者放在のカントすることにより、来館者表の機能を把握することができ、「Library」を使って、未 報告表の多・報目でも扱わり放演者の影響が、あり、ままの書きまで、ままの書きまで、「記書を表して、利用者の増加を目指 しただり、この書画機能、「図書館へは一つ」ボスターで、新書図書の表紙をカラーコビーしたものも掲示して、利用者の増加を目指 しただり、この書画機能、「図書館へは一つ」ボスターで、新書図書の表紙をカラーコビーしたものも掲示して、利用者の増加を目指 したがよ、この書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書の書	4.2	<i>J</i> 1 1	新年投入りよいのは2年代表表の金額を全施し、希望保存を建定して購入した。 生存と動き対象に図書談える43業をとと表し、希望保存というさい、 ・ 在書書がは、図書を持た「図書を持た」の図書を構入していうさい、 ・ 花書書間に合わせて図書を持が「図書を持入してう」ボスターを制作したり新着計 書窓内を基元したりした。特別を行り「Library」でか着図書館が、人気図書シ ンキング、クラス材は貸出ランキングの報鑑により、図書館の利用を促せた。また 、新書任の生力の協力により「図書館報」を挙行できた。今後もこのような書 書序発活動を課徒していさたい。 ・ 「異立図書館学校サポート環境」の実施後に「校内ピブリオバトル大会」を行 い、おすすめかねについて語り合う機会を持つことができた。次年度も図書館の記 性化に努めていさたい。	・表現力や思考力を高める取り組みとして、「校内ビブリオバトル大会」を開催するなどコミニケション力の向上に努められている。また、学校の図書館利用を充実させるたの取り組みが重点的になされている。このように読書活動の充実を図ることにより、読解力や表現力の向上へと繋がる。・校内美化に努める取り組みがされている。環境が心の安定にも影響する。環境の荒れが心の荒れを生み、客ち着かない学校生活となる。美化活動への取り組みで、教育活動が落ち着いた雰囲気の中で行われ、学校全体の相乗効果が期待される。 ・読書活動については、多様な試みが展開され、結果も出ていると思います。清掃活動についても、確実に活動がなされたという記録が残れば、十分な成果だと思います。・清掃活動及び図書館活用は、素晴らしい活動と思います、・
4	毎日の清掃活動・整備委員会による定期的 な通学路清掃を通して、校内条化・地域を 化に努めることの大切さと、環境問題への 意識を高める。 同時に、通学路清掃を通して地域の方々へ の感謝の意識も高める。	う。 整備委員会を活用して通学路清掃を実施す	・整備委員が作成したポスターを掲示することにより、生徒 の美化官競を啓発し、整備委員が率先して校内美化に努めて いる。 ・整備委員会による通学路清掃を学期に2回実施している。 ・整備委員による校内美化啓発ポスターを作成し、教室やゴ ミ箱付近に掲示している。	・整備委員を中心に学校関辺の通学路を中心に地域清掃を実施し、美化に努めることの大切さやゴミの分別など環境問題への意識付けを行うことが出来た。 ・武塚祭等を申心に、校内美化活動にも積極的に行い、校内を綺麗に保つこと、ゴミを上げないことなど自分たちが今できることについて意識付けと共に学校全体でも美化活動への意識付けをすることが出来た。 ・後期に向けてポスター制作やゴミ箱清掃を通じ、一層の校内美化・地域美化に貢献し、一人ひとりが美化活動の大切さを再認識できるよう取り組みたい。	4.0)	行うことができた。 ・学校行事に際して校内美化活動も積極的に行い、校内を綺麗に保つために自分たちが今できることについて考える機会を持つことができた。ま	情掃活動については、学期で2回やっているのは、地域の愛着につながるのでは、 図書館活用は本を選ぶだけでなく、各生徒に対して教育指導者が選んであげて、本の内容の トークが出来れば、良いのかなと思います。 ・努力目標②に関して、様々な読書啓発活動が功を奏し、昼休みの来館者数が昨年より増え たのだと思います。生徒からのリクエストや職員からの推薦で図書を購入するというのは、 自分たちの図書館という気持ちにもつながり、良いアイデアだと思います。

年次 · 専門部	令和3年 度努力 目標 No	: 課題(目標)	課題に対する取り組み	評価指標と活用する外部アンケート	前期の成果と後期へ向けて	評 価 点 (5段階)	各年次・ 専門部 平均	今年度の成果と次年度へ向けて	学校評議員からの提言
	1)	ながら、生徒の進路実現を考える。最終的に本人が納得する科 目選択につなげることで生徒の キャリア意識を向上させる。	ができるようwebでの配信。また各クラスに 他部署の教員をキャリアカウンセラーとし て配置し、面談を丁寧に行い、生徒の興味 関心や進路希望に合致した科目選択につな げる。	・「生徒実態調査」・「学校評価アンケート」	進路に関して、料目選択を2年次、1年次で行っている。本登録を締め切る状況である。 2年次に関しては、来年度開講科目を見据えて、人数調整を行った。選択生徒が集まらず末開講の講座もあるが、おおむね順調である。年次担当と話し合いを持ちながら進められた。 1年次に関しては、キャリアカウンセリング面談を夏休み前、夏休み後にもち進路を見据えた科目選択ができているかをキャリアカウンセラーと担任が情報を共有しながら進められた。	4.2		年92、1%とどちらも高い評価を得ている。年次やキャリアスタッフとの積板回の 旅、多数の料目単により幅に、連路に対応した運港化さが行えるところがほかいると考える。それに関しては「自分の将来を考えて作った自分独自の時間制で 様的に学ぶことができるか」という問いに対して、81年93、19、82年91、79、83 94、7%とこちらも高い評価と得ている。今後は新カリキュラムに順次移行してい く。さらに新し、連択科目を増やしている。これにより幅に、建路弾であっ り、より専門に特化した連路運択が可能となる。生徒とともに数修側もしっかり 考えていきたい。	を学習への取り組み判断として、客観的な基礎学力診断の指標が使われている。年次の特性の の確に分析し、個々に応じた対策に取り組まれている。家庭学習の定着化を図るため、課 関四根の最大の量だけでなく、主体的な学びの姿勢が育成される教技で工夫されている。 の は は
教務部	8 2	定期考査を軸とした学習への取り組み方を年次、部活動顧問などと共有しながら定着をはかる。通常授業における各教科の工夫により、生徒の学習意欲を高める。	をまとめる。職員研修により、誰もがディ ジタル機器を使えることを目指す。授業見 学、研究授業により、教師の技量をさらに	毎年実施しているアンケートで経年 評価を行っている ・「生徒実態調査」 ・「授業評価アンケート」	: アンケートは年度末実施である。 ディジタル機器の利用は、情報担当による研修。Wi-fi環境の整備とタブレット端 末の充実。授業改善のための授業見学。などによりほぼすべての教員が同じよう に利用することができている。今後は、来年度入学生徒全員がタブレットをもつ ことによる、通信速度の懸念がある。今のコンピュータ周辺機器環境では、限界 があるということだ。		4.2	次で取り入れている。1年次においては、生後圏々の各数件におけるつまづきが判 ができ、その皮膜のための雰囲にも観覚していた。また景外原理の学習の取り到 み方が診断され、到達度アストなども有効に利用していた。2年次、3年次において 体では、遺脂が多度によわるために1年度のよりな利用が難しい。さらり選達度アスト に関しても全角実施が国際であった。米年度はその取組み方形の整理が求められ 6、19出は期限を守って提出できていますか」という案件に対して、『できている』 14出は期限を守って提出できていますか」という案件に対して、『できている』 14はばできている』と答えた生後の割合を以下に示す。14年44、5%、20年22.6%、20年4 中旬・5%と高い数値となっている。変量学習が無理なく行える量であり、提出する のルーペーを繋がの過ぎを考えていくことが求められている。その記においては「スターループ」のとディを持つれている。その記においては「スタースーループを終めによる動画配 フィーケープリョのビディを持つの利用や本年度好評であった。担当教館による動画配	・新学習指導要領の実施に伴う評価方法の改訂やデジタル機器の有効利用にむけ、教職員全体で研修が取り組まれている。新入生から始まるBYOD導入のメリット・デメリットを踏まえ、コンピュータ関連の環境整備を急がれたい。・生徒のキャリア意職向上に、カウシセリングは良い方法と思い、今後も続けられたら良い。のでは、研究授業を通じて生徒の学習意放を高める為タブレット端末の活用、又、ペアグッループ学習での意欲向上は良いと思うが、タブレットだけでなく端末を持って無くても、スマイ活用がハードルが低いのでは。・努力目標①に関して、生徒の興味関心や進路希望に合った科目選択につなげるというのが「総合学科の肝だと思いますが、アンケートで高い評価を得ているのは、生徒と十分な面談を目行い、また、生徒の興味関心に対応できる幅広い科目を用意しているからこそだと思います。
	3	画する。また、その授業を研究授業などを 通して研究、実践、非有し意見交換がとき る体制を確立させる。さらに、生徒の実施 に評価することで、授業改善や学校全体の 授業力向上につなげる。	用を推進する。また、発表・討論の言語店 動や探究活動、観察・実験、調査等の体験 的な活動など工夫された学習活動を、一斉 学習や個別学習、ペア学習、グループ学習 等の場面に応じた学習形態で実施する。	・「学校評価アンケート」 ・「授業評価アンケート」	来年度入学生徒より、生徒の評価方法が変わる。 それを受けて、全体、各教科に対して、評価方法の検討を依頼している。従来の ら段階評定与同じく、3 観点に対するA、B、C評価が求められている。①知 識・技能②思考・判断・表現③主体的に学習に取り組む態度の3つの観点で評価 しなければならず、従来の評価では査定できていなかったことを査定することが 求められている。定期考査に重みを置く教育から、自ら考え思考し、表現するこ とを課す授業も求められることになる。職員全体で研修を進めている。	4.2		らいない。	
進路打導部	2	生後側々の希望連絡実現のためのサポートを 充炭させる。特にアドバンスクラスにおいて 適率を前提とし自らの連絡実現のために努力 できる生徒を育てる。1~3月の一般入試ま で粘り強く挑戦できる生徒を育てる。	アドバンスクラスに対するガイダンスや進 路講話等のプログラムの充実。各種検定へ の積極的な案内。また進路指導部主催行事 の内容の再評価と行事の精選。	適切な時期に講話を入れる。あるいは卒業生の体験談などを通じて継続的な学習の持続を促す。	コココ対策による日程変更もあり、いくつかのガイダンス等が延期になるなど各年次にはご迷惑をおかけしている。その中にあっても3年次アドバンスクラスには学習数での高まりが見え、積極から受験姿勢を見せるものがまる。その中によめても3年本程では2年次のパンスクラスのほぼを員が3年次でもアドバンスクラスを発望しており、他タラスからの希望もある。1年次ではこれから風吹拝楽によってゆく、今季約の大アドバンスクラスの卒業生を出したが、より効果的な指導が行えるようガイダンス・講話等の内容検討やアドバンスクラスへの共選理解を探めてゆきたい。	0	3.5	3年次下ドバンスクラスについては絵合学科枠の推薦入決や公募推薦、 ちに一般入地での合格者が得えるなど通学に対して積極的な取り組みな 立った。2年次でも水年度アドベンスクラスへの参加者恒者が多数申し 3など関心の高まりが感じられる。公年度に向け年次や教務との連系し ドバンスクラスの学力と意識の向上のため努力したい。教 数は、 数は、 が、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の、 の	生徒の希望や、希望の変更に対応したクラス編成の難しさを感じます。アドバンスクラスの運用について初年度の実績に関
	4	日常生活のマナー向上と基本的 生活習慣を確立させる。	服装違反・遅刻等の指導を徹底する。服 装・頭髪検査を定期的に行う。	に定期的に面談等を実施する。		3.8		校則が厳しすぎるという意見を保護者の方からいただいている。時代に 合った校則を生徒と共に考えさせる機会を設けていきたい。	・時代に見合った校則の在り方と生徒の日常生活のマナー及び基本的生活習慣の育成の両方が成立するような校則の見慮しは重要である。 ・苦情や良い知らせがある毎に、全校生に周知させるよう取り組まれていることは、生徒が自らの行動を振り返り、評価する良い機会となっている。教師ではなく一般の方々に褒められ認められる経験も、自己肯定感を高めている。教師ではなく一般の方々に褒められ認められる経験も、自己肯定感を高めていてすから、その都度発生する問題に、発達提修の拠点からも規範とは必ず出てくる年齢階なので、万事集単に済むはすがないですから、その都度発生する問題に
	4	学校内外において、自分の行動 に責任をもち「三木東高生」と しての自覚と誇りをもたせる。	校内外において、交通ルールやマナーを守り、他者の迷惑になるような行動は慎むよう注意喚起する。	苦情電話は地域の期待のバロメーターととらえ、苦情があった際には直ちに現場に赴き再発防止に努める。	苦情電話は5件あった、飲食店が3件地域からが3件であった、いずれも現場に赴き生徒が現場にいる時は共に謝罪をした。苦情のあった数日以内に放送にて苦情内容を全校生徒に周知した。交通ルールに関して、「ながらスマホ」をしている生徒がいるので注意をするとともに全校生徒に危険性について周知をする機会を設けたい。	4.0		苦情を頂いたら、翌日には朝の知路時に校内放送を入れ全校を後に苦情について報告をすることや、良いことを言われた時も放送を入れるようにた。また、時間がない時でも担任の先生から生後に伝えてもらえるようした。	■歯四は対処できていることが示されれば良いのだろうと思います。 ・コロナ橋において、生徒指導上の機能が見えることはでの学校にも起こりえる状況だと考える。そうした中、一人ひとりの 生後の状況に配慮した丁寧な生徒指導がなされていると感じる。校別の見慮しという課題には、生徒を真み中に学校・家庭・ 地能が連携してじつくりを規略を進めていこうとしている。 大連ルールやマナーを守れる、三木東校生としての自覚が持たる教育(ゴミ拾い等も含む)は良いことだと考えます、 人部率だけでなく、入りやすい部店を目指して、その中でアドバンスクラスを作り、高みは挑戦する、今後も楽しみです。 ・校別を即にアップして見える化するのは大事だと思います。「時代に見合った校別を生後と実に考える妻ではないのか、ま さい」というのは、その通りだと思います。生徒自身になぜこの校別が必要なかが、佼別によっては念ませる機会を設けてい またい」というのは、その通りだと思います。生徒自身になぜこの校別が必要なかが、佼別によっては念ませないのか、ま たは変更の必要があるか)を考えさせ、一定数の納得が得られるものでないと、守るモチペーションにつながらないと思います。 す、勝手に決められた校別ではなく、自身たちで決めた校別だからこそできる議論が生まれると思います。小个校則は大人
生徒技		部活動に積極的に参加させ、活 気ある学校づくりを目指す。	体験人部を3日間実施し、入部を喚起する。 部活動dayを月1回設け、教員が積極的に生 徒に関わる。	全校生の入部率80%以上、部活動を1 年間継続率を90%を目指す。	例年に比べて兼部している生徒や転部する生徒が多い。一つのことを継続して続ける力の育成が必要だと感じる。また、アルバイトをする生徒が急増しており、 経済状況から部活動の参加が難しくなってきているようにも感じる。	3.6	3.9		
	4	分かりやすい生徒指導を 目指す。	生徒指導の規定等を見直し、周知の方法を 図示にするなど、教職員や保護者、生徒が 分かりやすいものを作成する。	主に頭髪や喉髪の規定を見直し、生徒指導規定のDD化したものをホームページに助する等、常に誰もが確認できるたいし生地の規範登譲の離成を図るとともに、地域と共に生徒を育てられる学校を作る。	規定を見直した際、できる限り図や写真等を使用しユニバーサルデザインを意識 した案内を作成した。生徒指導規定のホームページ用は今年度内を目標に作成す る。	4.1		校則の見重しを実施している最中で何度も途中で改定を実施した部分も り、保護の方や生徒にはご整をさかけした部分が多々あった。でき 限り力かりやすいブリントや通知方法を心がけたが十分ではない部分も あったかもしれない。ホームページには合和4年度4月新校則をIP予定で、 る。	
	(5)	家庭・地域・中学校など関係機 関への積極的な情報発信。	ホームページなどで学校行事や生徒の活躍 の様子、近況などを広く印象的に伝える。	ホームページ毎週更新の実施。総合学科通信の 年12回以上の発行。	コロナ禍においても各部と連携し情報発信に努めた。ホームページをリニューアルし、誰もが容易に発信できる形にした。後期もさらに情報を発信していきたい。	4.0			・総合学科では、何を学ぶ場なのか、どのような力が身につくのかを理解させることが重要 であり、情報収集のシステム化が図られようとしている。受験生が総合学科の内容を理解 し、将来の自己目標を総合学科での学習とリンクさせやすい取り組みがされていることに加
総合書	5	教育内容に関する家庭や 地域などの理解の促進。	開催するオーブンハイスクールや学校説明 会ごとに参加者に合わせた多様な取り組み を行う。	オープンハイスクールにおける参加 者数250名以上、アンケート回収率 70%以上。	7月のオープンハイスクールでは約400名の参加があり、教室ごとに在校生が 中学生を対象に本校の学校紹介を行った。本校教員による体験授業もあり、アン ケート結果から多くの中学生が満足できる内容であったことがわかった。11月 のオープンハイスクールの参加者も250名を超えており、本校の教育内容を理 解していただく絶好の機会となっている。	4.1	3.8	見学、体験授業が講評である。これまでの取り組みを	・ オープンハイスクールについて、確実に成果を出している点は評価できると思います。 ・ 本校の特色である総合学科がIPや発表会の動画配信等で積極的に発信できている。特に、コロナ禍での総合学科発表会をWEBサイトで鑑賞できるようにしたことにより、関係者が生徒たちの学習成果を臨場感をもって観ることができたのはよかった。 ・ オープンハイスクールの開催により、総合学科の医辺を広げることは良いことです、昨年の授業参観で拝見した各部門での研究発表はスバラシイ授業でした。 ・ 努力目標⑤に関して、ホームページ等で最新の情報を随時発信することと、オープンハイスクールでの体験や見学を通して生の情報を発信することの両方に力が注がれており、地域 ・ 関係機関の理解が深まっていると思います。
推進者		総合学科に携わるうえで必要な 教員の資質の向上。	総合学科における取り組みの成果と課題を 全職員で共有し、専門性を高める。	年度末の職員研修の実施。	未実施 来年度から実施する新課程に向けて教員の意見を集約していきたい。	3.4	0.0	キャリア探究への移行に対しても大きな変化はなく、今までの取り組み 行うことで対応していきたい。単位数に伴う、見直しについては各取り; みの実施時期など生徒の活動状況を見ながら改善していきたい。	
_	1	生徒の進路保障につながる実践内容の充実。		総合学科発表会におけるアンケート回収率90%以上、参加者満足度80%以上。	カ 未実施 総合学科発表会に向けて担当ごとに準備を進めている。	3.7		来年度は県の総合学科発表会を兼ねることになり、学校全体の取り組み して、業務の分担を行うとともに、本校の取り組みを県の総合学科校に 知ってもらう良い機会にしたい。	
	4	心身の健康に関する総合的な知識を高め、自己管理ができるようになる。	保健委員による昼休み豆知識の放送やその 他の活動で、全校生徒へ生徒主体の発信を 充実させ、健康管理に対する関心を深める きっかけにする。	保健委員の活動率を90%以上にする。	95%達成できている。お昼の放送は、話し方に聞き取れない場合がある為、練習や工夫が必要。今年度は、体育の部での活動ができて、保健委員の活動がより活発にできた。やる気が出ない一部の生徒にも細やかな指導を行い、体験することで達成感や自己肯定感を育んでいる。			取れない場合がある為、更なる工夫が必要。やる気が出ない一部の生	・心身の健康に関して、3つの領域(内科的・外科的・精神的)を相互的に見通して取り組まれている。コロナ禍の影響もあり、精神的な不安が内科的にも外科的にも影響が強く出る。このようなコロナ禍の状況下だからこそ自己対処能力を高めていく取り組みに注目される。・コロナ禍による影響だけでなく、アナフィラキシーなどのアレルギー症など、命に関わる対応が図られる場面が増加している。教職員の対応スキルを向上させるために研修の機会も関かれている。
保健部	1	心身の健康に関して自己 対処能力を養い、高校生 としての資質を高める。	おいて、保健室経営や保健室でのその他の	口としての役割を強化した上で、個別対応において 解決できないケー	精神的に不安を持ち、相談に来る生徒が多い。また、心身のコントロールが上手 くいかず内科的症状を訴えたり生徒や、『登校するだけで精一杯』という生徒に 対して、保健部と該当年次や関係する教員で丁寧な対応をしている。教員との関 わりを通して、生徒の自己対処能力を高めている。		4.1	コロナ禍で、内科外科相談において、多岐にわたる生徒対応を行ってきた。相談に来る生徒も多い。また、心身のコントロールが上手くしか・ポハ科的症状を訴える生徒もいる。保健部と該当年水や関係する員で丁寧な対応をし、生徒の自己対処能力を高めている。次年度も、生徒や保護者のニーズに対応でき、自己対処能力を高めるような関がりを持ちたい。	使うでいきたい。 ・心身の健康に関して、カウンセリングを通じての対応、それに救急法の講習、薬物乱用防止講話等、幅広い活動をされていると思います。 ・コロナ禍で生徒も普段とはまた違う不安感や閉塞感を抱くことがあると思います。そんな生徒にとっては、気軽に相談できる保健室が拠り所となると思いますので、引き続き、該当年次や関係する教員と連携した丁寧な対応をお願いしたいです。
	3	生徒対応に必要な、生徒理解・ 緊急時対応力教員の資質の向上 を図る。	個別の生徒対応・救急法・カウンセリング・特別支援に関する研修や事例の対応を充実させる。	職員研修内容の周知徹底を100%に する。	今年度は、生徒に対して救急法の講習会が実施できたり、薬物乱用防止講話や保健講演会も実施予定である。職員に対しては、予定している研修内容の周知徹底は100%実施できた。内容の理解と実践につなげる点においては、今後も職員・生徒のニーズに合わせて改善していく。新型コロナ対策に応じた教員の対応力も向上している。	Ē		今年度は、コロナ橋においても、昨年度よりは生徒に対して護習会か 実施できた。職員に対しては、予定している研修内容の関知できた。 内容の理解を実践につなける点においては、職員や生態の機能的より 動変容につながるように保健委員も積極的に関わっていけたらよりま いと考える。	
事務国	1	年次・専門部の目標達成 への協力。	教材・備品等の購入・準備を迅速に行う。	購入希望のあった物品の調達率80% 以上とする。	,購入希望物品については概ね達成できた。年度末に向け、評価 指標を目指す。	3.9	3.9	教育環境改善に係る予算措置があったため、充実した 予算執行となった。今後も予算の重点をどこに置くた を見極め効率よく事務処理を行っていきたい。	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・